

学 会 发 表

Themes Presented at Conferences and Society Meetings

(2006.4-2007.3)

学会発表等

<一般学会>

(代表執筆者(先頭に氏名を記載)が所外研究者の場合は、当該研究の共同研究者となっている所内研究者にアンダーラインを記した。)

[感染症]

仲真晶子, 小西典子, 下島優香子, 石崎直人, 尾畑浩魅, 門間千枝, 矢野一好, 甲斐明美, 五十君静信, 諸角聖, 山田澄夫: *Listeria*のヒト糞便からの検出状況, 日本食品微生物学会学術総会(大阪), 2006.

樋口篤, 仲真晶子, 小西典子, 下島優香子, 尾畑浩魅, 門間千枝, 矢野一好, 甲斐明美, 福山正文, 山田澄夫: チーズからの*Listeria monocytogenes*検出法の比較検討, 日本食品微生物学会学術総会(大阪), 2006

門間千枝, 柴田幹良, 石崎直人, 甲斐明美, 矢野一好, 諸角聖, 山田澄夫, 春日文子, 小熊恵二: エスニック食品の嫌気性芽胞菌を中心とした汚染実態調査成績, 第27回日本食品微生物学会学術総会(大阪), 2006.

小西典子, 大塚佳代子, 田中廣行, 平松礼司, 矢野一好, 小沼博隆, 工藤由起子, 高鳥浩介: 血清型および対象食品の違いによる腸管出血性大腸菌の検出方法に関する検討, 第27回日本食品微生物学会学術総会(大阪), 2006.

森功次, 林 志直, 秋場哲哉, 野口やよい, 吉田靖子, 山田澄夫: ふきとり材料からのノロウイルス検査法, 第27回日本食品微生物学会学術総会(大阪), 2006.

甲斐明美: シンポジウム「腸管感染症: 最近の話題と知見」腸管出血性大腸菌感染症, 第80回日本感染症学会(東京), 2006.

小西典子, 尾畑浩魅, 下島優香子, 石崎直人, 門間千枝, 仲真晶子, 矢野一好, 松下秀, 甲斐明美, 山田澄夫, 諸角聖, 工藤泰雄: 過去40年間に東京都内で発生した下痢原性大腸菌による集団下痢症の細菌学および疫学的解析, 第80回日本感染症学会(東京), 2006.

貞升健志, 他: イムノクロマト法で陰性を示したHIV検査陽性の2症例について, 第80回日本感染症学会総会(東京), 2006.

向川純: 平成12年度より現在までに都内においてRFLP法で同一パターンを示した株による結核感染事例の解析, 第55回日本感染症学会東日本地方会総会(東京), 2006.

小西典子, 下島優香子, 尾畑浩魅, 門間千枝, 仲真晶子, 工藤由起子, 甲斐明美, 山田澄夫: 食品を対象とした腸管出血性大腸菌O157およびO26の増菌培養法の比較検討, 第10回腸管出血性大腸菌感染症シンポジウム(東京), 2006.

松下秀: 志賀毒素産生大腸菌O26: H11株に保有を認めた第三世代セフェム、ホスホマイシン耐性プラスミドpSTEC3060の構造について, 第10回腸管出血性大腸菌感染症シンポジウム(東京), 2006.

河村真保, 横山敬子, 高橋正樹, 松下秀, 甲斐明美, 山田澄夫: 2005年分離赤痢菌の菌種・血清型と薬剤耐性, 第46回感染性腸炎研究会総会(東京), 2007.

松下秀: *Vibrio cholerae*におけるキノロン系薬剤耐性と耐性関連遺伝子の変異, 第40回腸炎ピブリオシンポジウム(東京), 2006.

甲斐明美: シンポジウム「鶏肉・鶏卵を介した人, 鳥共通感染症」公衆衛生の立場から一鶏肉鶏卵を介した食中毒の現状, 第243回鶏病事例検討会, (茨城), 2006.

仲真晶子, 平井昭彦, 金子誠二, 石崎直人: リステリアの食品汚染状況と本菌の魚卵加工保存時における挙動, 平成18年度日本獣医師会学会年次大会(埼玉), 2007.

貞升健志, 長島真美, 新開敬行, 吉田靖子, 山田澄夫: 東京都内で検出されたHIV-1のProtease遺伝子の解析, 第20回日本エイズ学会学術集会・総会(東京), 2006.

新開敬行, 貞升健志, 長島真美, 吉田靖子, 山田澄夫: 東京都のHIV検査におけるイムノクロマト法偽陽性例について, 第20回日本エイズ学会学

術集会・総会（東京），2006.

長島真美，貞升健志，新開敬行，吉田靖子，山田澄夫：イムノクロマト法のロット間差に関する検討，第20回日本エイズ学会学術集会・総会（東京），2006.

森功次，林 志直，佐々木由紀子，野口やよい，甲斐明美：強酸性電解水およびナノバブル水による手洗い効果の検討，第47回日本臨床ウイルス学会（東京），2006.

〔医薬品〕

高橋美佐子，瀬戸隆子，長嶋真知子，鈴木仁，安田一郎，沼田竜一，宮本礼生奈，岩井恭子，阿部猛：都内における脱法ドラッグの分析-3-，日本薬学会第127年会（富山），2007.

浜野朋子，塩田寛子，中嶋順一，福田達男，鈴木幸子，吉澤政夫，荒金眞佐子，北川重美，安田一郎：都内に流通する植物系ドラッグの分析，日本薬学会第127年会（富山），2007.

中嶋順一，安田一郎，浜野朋子，塩田寛子，福田達男：薬物の含量からみた植物ドラッグと生薬，日本薬学会第127年会（富山），2007.

宮本道子，森謙一郎，中村義昭，寺島潔，大貫奈穂美，横山敏郎，荻野周三，斎藤和夫：化粧品および医薬部外品中の紫外線吸収剤の同時分析，日本薬学会第127年会（富山），2007.

塩田寛子，吉澤政夫，浜野朋子，中嶋順一，北川重美，安田一郎：いわゆる植物標本として販売されるアサ種子を生育させて得た薬部等の成分，日本生薬学会第53回年会（埼玉），2006.

鈴木幸子 他試作栽培担当者，森本陽治，村上守一：シャクヤクの試作栽培について，日本生薬学会第53回年会（埼玉），2006.

荒金眞佐子，福田達男，吉澤政夫，鈴木幸子，北川重美，中嶋順一，安田一郎，佐々木陽平，南雲清二：メスカリンを含有するサボテンの鑑別について，日本生薬学会第53回年会（埼玉），2006.

荒金眞佐子，福田達男，中嶋順一，吉澤政夫，鈴木幸子，北川重美，安田一郎：リベア・コリンボ

サ・シードの鑑定に関する研究，日本生薬学会第53回年会（埼玉），2006.

蓑輪佳子，岸本清子，守安貴子，門井秀郎，重岡捨身，浜野朋子，安田一郎：痩身用医薬品として個人輸入されたホスピタルダイエットの分析，第39回日本薬剤師会学術大会（福井），2006.

高橋美佐子，瀬戸隆子，長嶋真知子，鈴木仁，安田一郎，湯澤順司，鈴木忠：尿簡易検査キットによる試験結果とGC/MSによる分析，第21回日本中毒学会東日本地方会（東京），2007.

〔食品〕

宮川弘之，藤沼賢司，小沢秀樹，鎌田国広：ビール中のホルムアルデヒドの分析，日本食品衛生学会第91回学術講演会（東京），2006.

羽石奈穂子，安野哲子，金子令子，伊藤弘一：食品用プラスチック製品における酸化防止剤の含有量及び溶出量，第91回日本食品衛生学会学術講演会（東京），2006.

立石恭也，高野伊知郎，小林麻紀，田村康宏，富澤早苗，酒井奈穂子，上條恭子，井部明広：食品中のピペロニルブトキシド分析法の検討ーハーブおよび穀類加工品等についてー，日本食品衛生学会第91回学術講演会（東京），2006.

小林麻紀，高野伊知郎，田村康宏，富澤早苗，立石恭也，酒井奈穂子，上條恭子，井部明広：ベビーフード中の残留農薬実態調査(第2報)，日本食品衛生学会第91回学術講演会（東京），2006.

鷺直樹，森内理江，門間公夫，鎌田国広，広門雅子：コメDNA抽出手法の比較評価，日本食品衛生学会第92回学術講演会（愛知），2006.

森内理江，門間公夫，鷺直樹，広門雅子：大豆加工食品を対象とした遺伝子組換え食品におけるDNA抽出法の検討，日本食品衛生学会第92回学術講演会（愛知），2006.

中島正博，青山幸二，石黒瑛一，堤 徹，法月廣子，大須賀裕美，藤田和弘，甲斐茂美，田端節子，杉浦義紹，田中敏嗣，田中宏輝，高橋正紀，伊藤嘉典，小西良子，熊谷進：日本に流通する食品中のアフラトキシン，オクラトキシンAおよびフモニ

シン汚染実態調査(平成17年度),日本食品衛生学会第92回学術講演会(愛知),2006.

五十嵐奈津子,中村宗知,渡井正俊,伊佐川聡,藤田和弘,小西良子,中島正博,木谷裕亮,青山幸二,石黒瑛一,平岡久明,牧野大作,田端節子,田中敏嗣,法月廣子,滝澤和宏:玄米中のオクラトキシンA分析法の複数機関による評価,日本食品衛生学会第92回学術講演会(愛知),2006.

飯田憲司,田端節子,岩崎由美子,木村圭介,鎌田国広,広門雅子:市販食品のオクラトキシン及びその他のカビ毒の汚染実態,日本食品衛生学会第92回学術講演会(愛知),2006.

神田真軌,草野友子,小山内たか,牛山慶子,坂本美穂,竹葉和江,林洋,井草京子,井部明広:逆相・カチオン交換ミックスマードカートリッジを用いた食肉中残留抗生物質の微生物学的系統推定スクリーニング試験法(第4報)-テトラサイクリン系抗生物質の検討-,日本食品衛生学会第92回(愛知),2006.

坂牧成恵,中里光男,松本ひろ子,萩野賀世,平田恵子,永山敏廣:グレープフルーツジュースおよび健康食品中のフラノクマリン類含有量調査,日本食品衛生学会第92回学術講演会(愛知),2006.

大石充男,安田和男,佐藤恭子,渡部健二郎,岸弘子,伊藤澄夫,杉本敏明,森曜子:飲食物試験法、食品添加物試験法、プロピオン酸:高速液体クロマトグラフィーによる定性および定量,日本薬学会第127年会(富山),2007.

石川ふさ子,大石充男,新藤哲也,堀江正男,安井明子,伊藤弘一:ブルーベリーエキスを含有する健康食品中のアントシアニンの分析,日本薬学会第127年会(富山),2007.

高野伊知郎,小林麻紀,田村康宏,富澤早苗,立石恭也,酒井奈穂子,上條恭子,井部明広: Fipronilの分解と残留農薬分析における留意点,日本薬学会第127年会(富山),2007.

坂本美穂,竹葉和江,牛山慶子,井草京子,林洋,神田真軌,小山内たか,井部明広:LC/MS/MSによる畜産食品中のフェノール系寄生虫駆除剤の一

斉分析,第12回LCテクノプラザ(千葉),2007.

田端節子:市販食品のオクラトキシン汚染実態と汚染に関わる菌,マイコトキシン研究会第60回学術講演会(茨城),2006.

植松洋子:天然添加物中の残留溶媒について,第45回日本油化学会年会(千葉),2006.

[生活環境]

栗田雅行,瀬戸博:東京都内5地点におけるPM2.5とSPMの週間濃度変化,大気環境学会第47回年会(東京),2006.

斎藤育江,瀬戸博:金属成分を指標とした建材中アスベスト分析法の検討,第47回大気環境学会年会(東京),2006.

斎藤育江,瀬戸博,上村尚:アルカリ処理カートリッジを用いた室内空气中ニコチン及び3-エテニルピリジンの測定,平成18年度室内環境学会総会(東京),2006.

大貫文,斎藤育江,瀬戸博,上村尚:アセトアルデヒドの発生源に関する調査-建材、絵具及びタバコ-,平成18年度室内環境学会(東京),2006.

斎藤育江,大貫文,瀬戸博,上村尚:住宅室内の環状シロキサン発生源調査,環境ホルモン学会第9回研究発表会(東京),2006.

西野寅裕,大野正彦,佐々木裕子,高澤嘉一,柴田康行:都内水環境におけるPFOSの汚染実態,第15回環境化学討論会(宮城),2006.

高橋保雄:水道水及び加熱した水道水中の多環芳香族炭化水素の分析,第15回環境化学討論会(宮城),2006.

柄本博:小笠原諸島の浄水場の処理過程におけるトリハロメタンとハロ酢酸の挙動,第15回環境化学討論会(宮城),2006.

大野正彦:オゾン処理水放流河川の水生生物,日本オゾン協会第16回年次講演会(東京),2006.

大野正彦:オゾン処理水放流河川におけるユスリカと淡水生巻貝類の関係,第18回ユスリカ研

究集会 (福岡), 2006.

宇佐美美穂子: 東京都多摩地域地下水における塩化ビニルの実態調査, 日本薬学会第127年会 (富山), 2007.

鈴木俊也: 都市河川水中の医薬品の実態調査, 日本薬学会第127年会 (富山), 2007.

鈴木俊也: 都市河川水中の高血圧および糖尿病治療薬の実態調査, 第41回日本水環境学会 (大阪), 2007.

[生体影響]

中江大, 吉田緑, 前川昭彦: カテキンとグルコン酸銅の単独および複合安全性に関するラット中期多臓器発癌性試験を用いた検索, 第95回日本病理学会総会 (東京), 2006.

中江大, 増村健一, 坂元康晃, 鰐淵英機, 西川秋佳, 広瀬雅雄, 能美健彦: gpt deltaラットの肝発癌早期段階における遺伝子突然変異の発生と役割の発癌機構・系統による差異. , 第96回日本病理学会総会 (大阪), 2007.

阿部正義, 臼田浩二, 古川賢, Raj JL, 大久保勉, 中江大: ラット中期肝発癌性試験法を用いたカテキン及びグルコン酸銅の発癌リスクの評価, 第23回日本毒性病理学会年次学術集会 (東京), 2007.

五十嵐麻希, 吉田緑, 渡邊学, 菅野澄夫, 中江大: OGG1遺伝子欠損マウスにおけるNNKの肺発癌性. , 第23回日本毒性病理学会年次学術集会 (東京), 2007.

中江大, 増村健一, 坂元康晃, 高橋正一, 鰐淵英機, 梅村隆志, 西川秋佳, 広瀬雅雄, 能美健彦: gpt deltaラットにおける食餌性アミノ酸食化による突然変異の誘発と肝発癌の早期段階における遺伝子突然変異の発生と役割の発癌機構・系統による差異, 第23回日本毒性病理学会年次学術集会 (東京), 2007.

傳田阿由美, 中江大, 笹平智則, 木下アンナ, 鰐淵英機, 福島昭治, 國安弘基: コリン欠乏アミノ酸(CDAA)食によるマウス肝発癌に対するOgg1遺伝子欠損の修飾効果, 第65回日本癌学会学術総

会 (神奈川), 2006.

増村健一, 中江大, 坂元康晃, 高橋正一, 鰐淵英機, 梅村隆志, 広瀬雅雄, 能美健彦: F344系およびSD系gpt deltaラットを用いたコリン欠乏アミノ酸食による内因性ラット肝発癌と突然変異誘発能の解析, 第65回日本癌学会学術集会 (神奈川), 2006.

阿部正義, 吉田緑, 五十嵐麻希, Juneja L, 中江大: ラット中期多臓器発癌性試験法を用いたカテキン及びグルコン酸銅の発癌リスクの評価, 第65回日本癌学会学術集会 (神奈川), 2006.

五十嵐麻希, 渡邊学, 吉田緑, 山田俊幸, 櫻井拓也, 前川昭彦, 及川恒之, 菅野澄夫, 中江大: N-nitrosobis(hydroxypropyl)amine (BHP)誘発肺増殖性病変の悪性化と β -catenin活性の相関についての検討. , 第65回日本癌学会学術集会 (神奈川), 2006.

Nakae D, Masumura K, Sakamoto Y, Takahashi M, Wanibuchi H, Umemura T, Nishikawa A, Hirose M, Nohmi T: Generation of gene mutation in gpt delta rats by the modification of food composition and its involvement in endogenous and exogenous hepatocarcinogenesis with strain difference. 第11回日本フードファクター学会 (愛知), 2006.

中江大, 増村健一, 高橋正一, 鰐淵英機, 梅村隆志, 西川秋佳, 広瀬雅雄, 能美健彦: gpt deltaラットを用いた内因性および外因性肝発癌早期段階における遺伝子突然変異の発生とその系統差, 第21回発癌病理研究会 (徳島), 2006.

辰巳公平, 大橋一夫, 久永倫聖, 金廣裕道, 片岡美穂, 立野知世, 吉里勝利, 中江大, 嶋緑倫, 吉岡章, 中島祥介: 分離肝細胞の遠距離輸送試験および移植試験. 肝細胞移植治療実現化に向けた検討, 第13回肝細胞研究会 (北海道), 2006.

Sakamoto Y, Masumura K, Takahashi S, Nakae D, Nohmi T: Dietary choline deficiency induces oxidative mutagenesis in the liver of gpt delta rats. 第35回日本環境変異原学会大会 (大阪), 2006.

小野恭司, 大貫奈穂美, 森謙一郎, 荻野周三, 斎藤和夫: 染毛料用色素の皮膚感作性の検討, 日本

薬学会第127年会（富山），2007.

中川好男，田山寿美子，鈴木俊也，小縣昭夫：
ATP産生解糖系基質による*N*-ニトロソフェンフル
ラミン誘導性肝細胞傷害の防御作用，日本薬
学会第127年会（富山），2007.

福森信隆：多層カーボンナノチューブの形状お
よび分散に関する検討，日本薬学会第127年会
（富山），2007.

大山謙一：プラスチック容器から溶出する化学
物質の環境ホルモン作用，第77回日本衛生学会
総会（大阪），2007.

大山謙一，大貫文，斎藤育江，瀬戸博：臭素系難
燃剤のホルモン様作用，第47回大気環境学会年
会（東京），2006.

大山謙一，佐藤かな子，上村尚：酸化防止剤
4,4'-butylidenedi(6-*tert*-butyl-*m*-cresol)胎仔期曝
露のSDラットに及ぼす影響，環境ホルモン学会
第9回研究発表会（東京），2006.

高橋省：幼若マウス及びラットにおけるパラジ
クロロベンゼンの抗エストロゲン作用，環境
ホルモン学会第9回研究発表会（東京），2006.

佐藤かな子，野中良一，山口敦美，大山謙一，小
縣昭夫，上村尚：使い捨て手袋溶出物のラット胎
仔期投与は脳重量を減少させ、雄脳アロマトーゼ
活性を上昇させた，環境ホルモン学会 第9回研
究発表会（東京），2006.

伊藤和美，渡辺恭子，熊谷和善，鈴木洋子，齊藤
有司，寺田仁美，清沢直樹，寺西宗広，古川忠司，
矢本敬，中江大：F344ラットにおける
acetaminophen誘発肝障害に3-aminobenzamideが
与える影響，第33回日本トキシコロジー学会学
術集会（愛知），2006.

阿部正義，鈴木紀子，吉田緑，五十嵐麻希，臼田
浩二，古川賢，植松史行，高橋正一，前川明彦，
中江大：カテキン及びグルコン酸銅を用いたラ
ット中期多臓器発癌性試験法による検討，第33
回日本トキシコロジー学会学術集会（愛知），
2006.

田山邦昭，中川好男，坂本義光，安藤弘，久保喜
一，長澤明道，高橋弘，矢野範男，湯澤勝廣，小
縣昭夫，青木直人：哺乳期雄性ラットの生殖器系
に及ぼす4-ヒドロキシベンゾフェノン低用量投
与の影響，第33回日本トキシコロジー学会学術
年会（愛知），2006.

多田幸恵：ICR雄マウスの肝臓における難燃剤テ
トラプロモビスフェノールAの影響，第23回日本
毒性病理学会学術集会（東京），2007.

〔公衆衛生〕

池田一夫：自立不全の総合的制御ー地域介護量
の圧縮を目指してー第7報. 介護需要の動向の長
期的展望，第65回日本公衆衛生学会総会（富山），
2006.

池田一夫：病気の分布の場としての人口，日本
人口学会第58回大会（東京），2006.

＜地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部研究会＞ 第19回細菌研究部会（埼玉，2006）

横山敬子，高橋正樹，河村真保，藤川浩，甲斐明
美，山田澄夫：カンピロバクターの薬剤耐性につ
いて.

向川純：結核集団感染事例における分子疫学的
解析法としてのVNTR法の応用.

第21回ウイルス研究部会 （栃木，2006）

長島真美，貞升健志，新開敬行，吉田靖子，山田
澄夫：Multiplex PCR法を用いたヒトパピローマ
ウイルス遺伝子検査.

森功次，林 志直，秋場哲哉，野口やよい，
吉田靖子，山田澄夫：ウェットティッシュによる
手指衛生効果の検討.

第19回理化学研究部会研究会（千葉，2007）

門井秀郎，守安貴子，蓑輪佳子，岸本清子，重岡
捨身，安田一郎：強壮系薬物の含有が疑われる健
康食品の検査.

木村圭介：食品の苦情事例.

鈴木敬子, 前潔, 石川ふさ子, 貞升友紀, 藤原卓士, 小川仁志, 伊藤弘一: キャンディ中のクチナシ黄色素の分析.

大貫文, 斎藤育江, 瀬戸博, 上村尚: 喫煙状況を反映する室内空気中化学物質.

斎藤育江, 大貫文, 瀬戸博, 上村尚: トルエン・キシレン規制後の塗料中揮発性有機化合物.

**<衛生微生物技術協議会>
第27回研究会 (北海道, 2006)**

高橋正樹: カンピロバクターの分類と同定について.

向川純: 結核集団感染疑い事例における分子疫学的解析法としてのAP-PCR法の応用.

**<全国衛生化学技術協議会>
第43回年会 (鳥取, 2006)**

大貫奈穂美, 中村義昭, 寺島潔, 森謙一郎, 宮本道子, 荻野周三, 斎藤和夫: 市販タトゥーシールに含有されるホルマリン等の分析

森謙一郎, 中村義昭, 寺島潔, 横山敏郎, 宮本道子, 荻野周三, 斎藤和夫: 安息香酸デナトニウム含有化粧品の分析.

瀬戸隆子, 長嶋真知子, 高橋美佐子, 鈴木仁, 奥本千代美, 安田一郎: 平成17年度東京都の脱法ドラッグ検査において検出した薬物について.

鈴木仁, 高橋美佐子, 瀬戸隆子, 長嶋真知子, 奥本千代美, 安田一郎: ラッシュ系ドラッグの薬物確認法.

守安貴子, 蓑輪佳子, 岸本清子, 門井秀郎, 重岡捨身, 安田一郎: 育毛を目的とした健康食品中に含有される医薬品成分の分析法.

岩崎由美子, 田端節子, 木村圭介, 飯田憲司, 中里光男, 鎌田国広, 広門雅子, 安田和男: ポピーシード中のモルヒネの分析について.

高野伊知郎: ポジティブリスト制度施行後の地方衛生研究所における食品中残留農薬等の検査

状況.

林洋, 牛山慶子, 草野友子, 坂本美穂, 竹葉和江, 神田真軌, 井草京子, 小山内たか, 井部明広: LC/MSによる鶏肉および鶏卵中のポリエーテル系抗生物質の分析.

船山恵市, 金子令子, 羽石奈穂子, 安野哲子, 伊藤弘一: FT-IRによる食品用容器包装の材質鑑別における試料前処理法.

門間公夫, 森内理江, 鷺直樹, 鎌田国広, 広門雅子: トウモロコシ加工食品からのDNA抽出法の検討.

植松洋子, 荻本真美, 樺島順一郎, 鈴木公美, 伊藤弘一: カプセル剤・錠剤食品中のステアリン酸塩の分析.

川本厚子: SBT試薬による遊泳用プール水中の二酸化塩素, 亜塩素酸イオン及び残留塩素の定量.

鈴木俊也: 東京都多摩地域における飲用の井戸水中農薬の実態調査.

**<全国薬事指導協議会>
第43回総会 (和歌山, 2006)**

岸本清子, 蓑輪佳子, 門井秀郎, 守安貴子, 重岡捨身, 長嶋真知子, 高橋美佐子, 鈴木仁, 瀬戸隆子, 安田一郎: 都内医療機関への立ち入り調査にともなうアンケート調査と品質試験

**<東京都福祉保健医療学会>
平成18年度 (東京, 2007)**

長嶋真知子, 瀬戸隆子, 高橋美佐子, 鈴木仁, 安田一郎: いわゆる脱法ドラッグ条例による知事指定薬物の分析法と平成17年度薬物調査結果.

新開敬行, 貞升健志, 長島真美, 吉田靖子, 山田澄夫: 健康安全研究センターにおける新型インフルエンザ検査システムの構築と実践.

鈴木幸子, 福田達男, 吉澤政夫, 荒金眞佐子, 北川重美, 中嶋順一, 塩田寛子, 浜野朋子, 安田一郎: 健康被害を起こした健康食品「天天素清脂胶囊」に含有したダイオウ粉末の鏡検による鑑別について

<国際学会など>

Kai A., Konishi N., Obata H., Shimojima Y., Monma C., Nakama A. and Yamada S.: Epidemiological and bacteriological aspects of EHEC infections in Tokyo, 6th International Symposium on Shiga Toxin (Verocytotoxin)-Producing E. coli Infections (Melbourne), 2006. (第6回国際腸管出血性大腸菌感染症シンポジウム, メルボルン)

Nakama A., Konishi N., Shimojima Y., Obata H., Monma C., Kai A., Igimi S. and Yamada S.: Prevalence of *Listeria* in Feces of Patients with Gastroenteritis and of Healthy Food Handlers in Tokyo, Japan, The 16th International Symposium on Problems of Listeriosis Savannah (Georgia, USA), 2007. (第16回国際リステリア症シンポジウム, 米国ジョージア州サバンナ市.)

Monma C., Yanagawa Y., Shibata M., Obata H., Kai A., Yamada S. and Itoh T.: Botulism-Tokyo, 1996-2005, The 43rd Interagency botulism research coordinating committee meeting Silber Spring (Maryland USA), 2006. (第43回ボツリヌス症研究会, 米国メリーランド州シルバースプリング)

Setsuko Tabata: Mycotoxin contamination in foods and foodstuffs in Japan (日本における食品及び食品原料中のカビ毒汚染), ISMYCO Bangkok '06 (マイコトキシン研究会国際シンポジウム バンコク '06)

Nakae D, Floyd RH.: Antioxidant and signal-normalizing properties of phenyl N-tert butyl nitron and its derivatives in chemoprevention of hepatocellular carcinoma., 薬学・毒性学の最前線に関する国際カンファレンス (米国イリノイ州シカゴ市), 2006.

Guo W-X., Broyles R., Towner R., Hensley K., Nakae D., Kotake Y., Floyd RH.: Involvement of S-nitrosylation and PTEN inactivation in choline deficiency-induced hepatocellular carcinoma, the 97th Annual Meeting of the American Association of Cancer Research (AACR), Washington DC, U.S.A, April 1-5, 2006. (97回米国癌学会年次総会, 米国コロンビア特別区ワシントン市)

Floyd RH., Towner R., Guo W-X., Hensley K., Broyles R., Nakae D., Kotake Y.: Nitric oxide in hepatocellular carcinoma development., the 97th Annual Meeting of the American Association of Cancer Research (AACR), Washington DC, U.S.A, April 1-5, 2006. (97回米国癌学会年次総会, 米国コロンビア特別区ワシントン市).

Satoh K., Sakamoto Y., Ogata A., Kamimura H., Numazawa M.: Involvement of antithyroidal effects and inhibition of the aromatase activity in the endocrinological effects of green tea extracts in rats, The Kadota Fund International Forum 2006 (Inuyama), 2006. (門田国際フォーラム 2006, 愛知) .